

「つみたてNISA」なら中長期の投資に向く

つみたてNISA 対象商品の条件その1

金融調査部 研究員 是枝 俊悟

数ある投資信託の中から積立投資に適した商品を選ぶのは難しいかもしれません。その場合、「つみたてNISA」で投資信託を購入するとよいでしょう。「つみたてNISA」で投資信託を購入すれば、おのずと中長期的に安定的な収益を得ることを目指した資産運用が行えます。その理由は、「つみたてNISA」の対象商品になるために設けられた条件にあります。今回から3回にわたって「つみたてNISA」対象商品の条件を説明します。

積立投資に適した商品を選ぶのは難しい？

これまで、インデックス投資信託やバランス型投資信託を積み立てていけば中長期的には安定的な収益を得られる可能性が高いであろうこと、積立投資には分配金がなるべく支払われない投資信託が適していることなどを説明してきました。

しかしながら、日本には約5,000本の投資信託があり、これだけの投資信託の中から積立投資に適した投資信託を見つけるのは、特に初めて投資信託を購入するような投資初心者にとって、難しいかもしれません。

そこで、**積立投資に適した商品を選びやすくした仕組みが「つみたてNISA」なのです**。「つみたてNISA」で投資信託を購入すれば、おのずと中長期的に安定的な収益を得ることを目指した資産運用が行えるのです。

なぜかという、「つみたてNISA」の対象商品となるためには、中長期的に安定的な収益を得るために必要な条件が定められているからです。その条件とは、大きく分けて3つ、①中長期の投資に向く商品であること、②手数料が明確かつ低水準であること、③投資対象が十分に分散されていること、です。今回は、このうち、**①中長期の投資に向く商品であること、について説明します**。

中長期の投資に向く商品とは

「中長期の投資に向く商品であること」の具体的な条件は図表の通りです。

図表 つみたて NISA 対象商品の条件「①中長期の投資に向く商品であること」とは

- | |
|--|
| (1) 運用を続ける予定の期間が 20 年以上または無期限であること
⇒テーマ型の投資信託は対象外 |
| (2) 毎月分配型でないこと |
| (3) デリバティブを使ってリスクを増幅させる商品でないこと
⇒ブルベア型の投資信託や通貨選択型の投資信託は対象外 |

(出所) 法令をもとに大和総研作成

せっかく長期間運用するつもりで投資信託を購入しても、その投資信託が運用を終了させてしまう可能性もあります。投資信託は、それぞれ運用を続ける予定の期間を定めていますが、「つみたて NISA」の対象商品は、図表の(1)にあるように、その期間が 20 年以上か無期限のものに限られています。

テーマ型の投資信託 (本シリーズ第 7 回で説明しました) は、今まさに旬な投資対象を意識して集中投資を行うため、運用を続ける予定の期間を 5 年や 10 年としているものが多いです。こうした商品は、投資テーマが当たれば大きな利益を得られる可能性もありますが、中長期で投資を行うにはあまり向いていないでしょう。

毎月分配型投資信託が積立投資に向いていないことは本シリーズ第 10 回で説明した通りです。図表の(2)にあるように、毎月分配型投資信託は「つみたて NISA」の対象外となっています。

図表の(3)で出てくる「デリバティブ」という言葉は、ここで初めて見た方もいるかもしれません。デリバティブとは、株式や債券そのもの(元本)に投資をするものではなく、株価や外国為替などの変動に応じて金銭などを受け取ったり支払ったりする契約のことをいいます。

投資信託の中には、デリバティブを活用して、普通に株式や債券に投資するよりも大きな利益を狙おうとする商品もあります。代表例としては、インデックスの 2 倍、3 倍の値動きに連動することを目指した**ブルベア型の投資信託**や、株式や債券に投資しつつその投資対象とは異なる国の通貨の金利や為替差益を得ることも目指す**通貨選択型の投資信託**などが挙げられます。

こうした商品は大きな利益をあげられる可能性もありますが、短期間のうちに大きな損失を出して運用が続けられなくなることもしばしばあります。やはり、中長期の投資には向いていません。

「つみたて NISA」の対象商品からは、テーマ型、毎月分配型、ブルベア型、通貨選択型など、中長期の投資に向いていないような商品は除かれているのです。

(次回予告: 「つみたて NISA」ならコストが明確で低水準) 以上